

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971800038		
法人名	川西町		
事業所名	ぬくもりの郷グループホーム		
所在地	奈良県磯城郡川西町大字吐田94番地		
自己評価作成日	平成23年2月7日	評価結果市町村受理日	平成23年4月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成23年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた外部環境とともに、ゆったりとした居住空間をもって それぞれが穏やかに生活を送っていただけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地方公共団体が設置し、社会福祉法人が委託を受け運営されているグループホームです。事業所内の共用空間は清掃が行き届き、明るく・広く清潔感があります。また、季節感を演出するための工夫もなされ、穏やかに過ごせる環境が確保されています。このような下で利用者は、特技等を活かしながら本人の生活リズム・ペースで過ごされています。なお、和室・洋室の準備がなされています。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印		項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4項目の独自理念があり、毎日それを意識して努力している。 職員ひとりひとりが理解できるように努めている。	人格の尊重と利用者本位を基軸に、地域との関わりを重視した理念があり、定例の会議等において話し合い、職員への浸透と実践に活かす取り組みがなされています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に地域との交流は行いにいが、敷地周囲の畑に作業に来る人とのつながりを大切にし、世間話などもよくしている。 また、町の行事にはできるだけ参加するように心がけている。	立地的環境から、日常的な交流に希薄感がありますが、町内行事への参加や中学生の職場実習の受け入れ、また、周囲で農作業等をされている方々との交流もあり、地域との付き合いに広がりが見られます。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、実習、相談等の機会を活かしている。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回おこなっている。 参加者は自治会長、家族代表、地域包括支援センター職員、管理者、GH主任で施設の現状や課題について話し合っている。	会議は定期的に行われ、利用者の現状や行事等の報告とともに、当面の課題等について意見交換され、運営に活かす機会として取り組まれています。	会議等の内容が、やや定型化傾向にありますので、会議設置の機能をより有効に活かすための工夫を期待いたします。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政が事業主体であり、運営を委託されているので連携は密におこなっている。	設置主体が行政であることから、連携は密に図られています。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。 拘束をしないケアに努め、研修もおこなっている。	研修もあり、従事者は身体拘束の弊害を正しく認識され、実践されています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会をおこない、日々意識付けしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については概ね理解しているが、細部については学ぶ機会を得ていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方の不安や相談等、契約時のみでなく日ごろから十分コミュニケーションを図り、話し合える環境をつくっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方の要望等はできる限り受け止めている。 運営推進委員会でも議題として話し合っている。	家族の訪問時等に不安に感じられている事や要望等について積極的に聞き出す取り組みがされ、聴取されて意見等は記録し、職員間の共有化と運営に反映させる取り組みがなされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議や日ごろから意見提案できる機会を設け、反映できるようにしている。	毎月会議が開催され、運営等に関わる意見交換がされ、開示された意見等を検証し、運営に活かす取り組みがなされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に福利厚生面に気をつけ、仲間意識につなげている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で計画的に行っている研修会には多く職員が参加し、トレーニングを行っている。 参加できないものについては研修記録を確認している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内の特養・デイサービスとの交流はあるが、他の施設との交流はない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションを図り、傾聴できるよう努めている。 また、入所時に家族等の要望を聞いたり、本人の不安感を取り除く努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や相談に来られた場合に聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極め対応に努める答辞にアドバイスも行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ドライブや神社参り、畑の収穫等の喜びを共に感じていくようにしている。 また、日課の手伝いをしていただき、関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に面会時には話し合いをおこない、必要に応じて電話等をする。 職員は食事を一緒にいただき、より関係を築くようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の生活の中で本人の馴染みの人たちの話を聞かせていただいたり、思い出が途切れぬよう努めている。 デイサービス利用者との交流も多い。	馴染み関係の維持・継続は、安定した生活の糧にもなっているとの思いがあり、外出機会での買い物や知人の受け入れ等に努められています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年々レベル的に低下してきて関わり合いも少なくなってきたいて、職員を通じてのコミュニケーションとなることが多いので、各テーブルに職員が分かれて食事している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH退所後は、ほとんどの方がGH委託先と同じ法人の特養へ入所されるので職員が特養へ訪れた際に面会している。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思い、意向を感じとることができており、意に添えるように努めている。表現できない方については会議や引継ぎのときに職員同士で検討している。	日々の暮らしの中の会話や行動等の観察と気づきから、一人ひとりの思いの掌握・記録がなされています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるときに家族より聞くとともに、常に情報を得るようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のペースを大切にしている。心身状態もその日その日の状態に合わせてるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者または家族の意向を踏まえて利用者本位の介護計画を作成するように努めている。	介護計画の作成やモニタリングの必要性について正しく理解され、関係者が相談され、適宜・適切な対応が図られています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のGH会議や日々の気づきを通して見直し、実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に外出する機会を持っている。また、通院時においても家族の協力を得ながら通院介助を行う時もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティア、慰問等を通じて交流している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	書面、及び職員の付き添いによってかかりつけ医とのかかわりを持っている。	契約時にかかりつけ医について相談され、本人の希望を優先した対応がなされています。なお、受診に際しても、家族の状況を勘案され、付き添い等適切な支援が図られています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を早急に気づき、看護師へ相談または、指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報を共有できるように努めるとともに、面会時病院関係者と話し合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、できる限り支援するように心がけ、今後の方針を家族とともに話し合いを行っている。 終末期については、職員の配置、かかりつけ医の受け入れ等の問題により行っていない。	終末期への対応の必要性や関心を持っておられますが、解決すべき課題が多く、はっきりした方向性を確立されるまでには至っていない状況にあります。	家族等は、終末期への関心も高いと思慮いたしますので、設置主体の行政や関係者と十分相談され、課題の克服と方針の樹立に向けた取り組みを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、勉強会をおこなっており、近隣居住の職員の協力を得ている。(特に夜間の場合)		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火設備、非常口の確認を心がけ、マニュアルの設置と、近隣の関係職員の協力を得るようにしている。なお、訓練は利用者の心理的負担を考えて職員だけで行った。	緊急通報装置や消火設備が完備され、また、火災時の周辺住民への応援・協力要請がなされています。また、職員による、避難・誘導訓練も定期的の実施されています。	火災発生時は、利用者を安全・迅速に屋外へ誘導することが求められますので、訓練実施に当たっては、利用者の参加と震災に備えて必要物品の備蓄について検討され事を期待します

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「施設職員として」(心構えのマニュアル)に基づき、利用者に対して気を配り、特に言葉遣いに注意している。	基本理念の一つでもある「人格の尊重」を常に心がけ、一人ひとりに合わせた言葉遣いに対応に努められています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、意に添うようにしているが、自己決定できない方に対しては、表情や態度について気をつけている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の中でペースをあわせられるようにしているが、時には臨機応援に対応するときもある。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望に添える身だしなみをおこなっている。(ヘアスタイル、服装)			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にできることを手伝ってもらっているが、決まった人に手伝ってもらうことが多い。 行事のときの食事は季節感を楽しめるようにしている。	食事の準備や後片付け等に一人ひとりの能力に応じて協働され、楽しい食事環境への取り組みがなされています。また、季節感を味わうための工夫もなされています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の元でのメニューであり、量はその日の体調や体重増加等を見ながら調整している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後にはうがい、または義歯をはずして洗浄、夜間は預かりで洗浄剤を用いる。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時誘導、随時誘導をおこなっている。	排泄パターンの掌握・記録と行動観察等により、自立排泄への支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックに記入し、全職員が把握し、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる体制はあるが、基本的には夕食前、15時30分から開始している。	入浴日の設定は無く、本人の意向を優先した支援が図られています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅時から本人が使用していた布団を使用している。 温度調整等気をつけるとともに、本人の意に添うように支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書に記載している内容を把握し、職員全員が確認し合い、症状の変化にも注意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法、レクリエーション等を工夫しながら行っている。 おやつ作り等の工夫をする。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により戸外にでかけて日光浴やドライブ、買い物を楽しむ。 最近、外出機会が少なくなっていると思う。	広い敷地内や周辺の散歩の日常化への取り組みや買い物・外食等外出機会の確保に努められています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い管理は職員が主であり、本人が使用する機会は少ない。 自己管理ができる方は9名中1名である。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば意に添うようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃に努め、居心地の良い清潔な空間作りに努めている。 観葉植物を置いたり、外回りには畑を作ったり、花壇には季節の花を植えている。	明るく広い共用空間は、清掃等が行き届き、また、季節に合わせた装飾もされ、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった空間の中で工夫をしており、居室にてテレビを利用される方もある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを置いていただくよう勤めているが、収納スペースが広いので、実際に使われていた家具を持ち込まれる方が少ないのが現状ある。	和室・洋室が準備され、利用者は使い慣れた家具や好みの品が持ち込まれ安心して過ごせる居室となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを活かし、トイレや浴槽の手すり等で安全に生活できるよう支援するとともに、見守りを行っている。		